



鈴木蒲郡市長



東野三河港所長



ドローンによる施設点検

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

舞港において被災者役が

## 倉舞港で海上輸送訓練 三河港湾事務所 災害時の港の有効性確認

中部地方整備局三河港湾事務所は10月16日、西浦半島西側に位置する倉舞港において、大規模災害による陸路寸断を想定した防災訓練を蒲郡市と合同で実施した。訓練で

は、ドローンを使用した港湾施設点検および港湾業務艇「しおさい」による倉舞港と三河港の海上輸送訓練を行った。当日は鈴木寿明蒲郡市長や東野隆之三河港湾事務所長をはじめとする市・事務所の職員合わせて約30名が参加した。

訓練の開始にあたり、鈴木蒲郡市長が挨拶し「本日の訓練では発災時における倉舞港の有効性を検証するために物資輸送や施設点検を行う。この辺りは半島地域かつ観光地の西浦温泉が隣接していることから、災害時には倉舞港が極めて重要な役割を果たす」と述べた。

東野所長は、「国交省では『命のみならずネットワーク』形成の取組として、港や業務艇を活用した人員・物資輸送訓練を進めているが、三河港湾事務所が倉舞港で災害対策訓練を行うのは今回が初めて。今後活かせるような訓練となるよう、蒲郡市と連携して取り組みたい」と挨拶した。



海上輸送訓練の様子

「しおさい」に乗船し、三河港へ海上輸送した。業務艇は東港船だまりに着岸し、被災者下船の手順を確認するとともに支援物資(段ボール15箱)の積み込みを行い、倉舞港へ折り返し輸送した。三河港―倉舞港は往路復路ともに約20分で航行し、

支援物資の到着後は参加者一丸となって搬出車へ積替えを行った。訓練終了後の講評では、鈴木市長が「ドローンの訓練では職員による的確な操作により、鮮明な映像でしっかり点検を行い海上輸送訓練へスムーズに移行できた。倉舞

港から竹島までは船で約20分であり、陸路が寸断された場合において最も有効な手段であることを確認した」と評するとともに、今後は災害時の倉舞港の利用について住民へ周知し、更なる防災ネットワークの形成に取り組んでいくと述べた。

三河港湾事務所は、昨年度も伊良湖港において田原市と合同で海上輸送訓練を実施する等、半島地域における自治体との協力体制の構築を進めてきており、今後も訓練計画を見直しながら定期的に実施することで災害に備えたい考え。